



「ヤマトネイチャーサークル」は、株式会社ヤマトが行なっている様々な自然環境への取り組みの総称です。

さらなる自然との共生を目指し、地域社会や自然環境への貢献を目的として「ヤマトネイチャーサークル」は幅広い情報を発信していきます。

葉画家 群馬直美の ヤマトビオトープ園の葉っぱたち vol.66 絵と文 群馬直美

絶滅危惧種の心意気《ホタルカズラ》

ビオトープ園の池の辺りで、
可憐な青い花と出会った。
心魅かれて根っこから引き抜くと、周辺の茎がごっそりついてきた。
この花、名前をホタルカズラという。2種類の茎が生え出るそうだ。
1つは直立して花をつける茎。もう1つは花をつけずに地を這って根を張る茎。
だから1本だけ抜こうとしても、みんなついてきて大所帯になる。
多くの都道府県でレッドリスト入りしている。
群馬県でも、絶滅危惧II類（野生絶滅の高い危険性がある危急種）とされている。
それにしてもなんて愛くるしい姿だろう。
黒々した根と対照的に、
葉っぱたちの明るい色合いと柔らかな質感は、天使の歌声のよう。
青い花の真ん中から五つの方向に白い筋が盛り上がり、お星様みたいに輝いている。
絵筆を執るのも忘れて立川のアトリエで、うっとり。
「さあ、描くぞ！」
と翌朝、息せき切ってアトリエにやって来ると、何ということだろう。
あんなに元気だった青い花がしおれている！
困った、どうしよう……。
そうだ。花の部分は昨日撮った写真を見て元気な姿を、
葉っぱや茎や根っこは今日の状態を……と、
シャープペンシルで下書きをはじめると、ダメだ、ダメだ。
私はこれまで、この世でただ一つの命の輝きを、見たままありのままに描いてきたではないか。
絶滅の危険性がある花の元気な状態を描きたいのは山々だが、
見たままありのまま正直に描く私自身もまた、絶滅危惧種的存在のように思える。
しおれた花はしおれたままに描こう。
——心を決めて1mm単位で凝視し、茎や葉やガクに生える無数の細かな毛、
極小の土粒などの付着物もつぶさに描いた。
この見えるか見えないかの微細な世界を皆様にも見ていただきたいくて、
これまた絶滅危惧種的な手間と時間の掛かる画像データ作製を依頼し、
印刷に至った。どうぞ、ご覧ください。

表紙の絵「ホタルカズラ」

花びらの縁の黒ずみ 赤茶色の斑点 みんな美しい

- ・ヤマトビオトープ園にて2023.4.26採集
- ・紙（ファブリアーノエキストラホワイト 極細目）/テンペラ
- ・size:380mm×280mm
- ・2023.5.19完成 © Naomi Gumma

建設プロダクト  ヤマト

株式会社ヤマト 総務部広報室

2023年7月発行

〒371-0844 群馬県前橋市古市町118 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896

ヤマトホームページ www.yamato-se.co.jp

群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、“葉っぱ”をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中の一つ一つのものは全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。著書に『言の葉 葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の實の美術館』他。東京都立川市在住。 <https://www.wood.jp/konoha/>